

入 選

1/24(木)

当時)

飛散情報参考に回避

健康

花粉症は、一九六〇年代に初めてスギ花粉症の報告がされてから、年々増加する傾向にあります。

ご存じのように、花粉症は花粉によって引き起こされるアレルギー疾患です。花粉症の人は毎年、くしゃみ、鼻水、鼻づまり等のアレルギー性鼻炎や、目のかゆみ、流涙といったアレルギー性結膜炎などの症状に悩まされます。

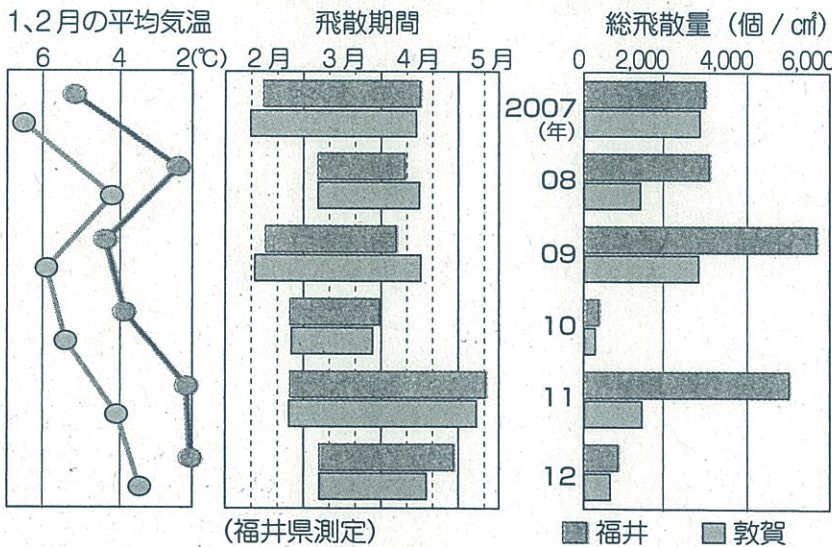
最も多い花粉症は、春先に見られるスギ花粉症といわれています。

スギ花粉は例年、七月八月の夏場にかけてスギの雄花で作られます。そして夏から秋にかけて成長し、翌年の春先、雄花が開花することによって花粉の飛散が始まります。

県衛生環境研究センターでは、スギとヒノキの花粉の飛散量を、二〇〇七年から福井と敦賀の二カ所で観測しています。花粉飛散量は、一日ごとに一平方センチメートルに落下する花粉数を計

いきいきライフ

福井県内のスギ花粉の飛散状況



測するもので、その結果は、ホームページで公表しています。福井や敦賀で観測されて

スギ花粉症対策

全国的にも二二年の飛散量は少なくなっていました。これを受けた環境省の予報(二二年十二月発表)によれば、県内での飛散量は二二年春と比較して多く、また、冬が寒い年には飛散開始時期が遅くなる傾向があります。スギ花粉症を発生しやすくなります。この飛散期間に観測されているスギ花粉の総飛散量は、一平方センチあたり約三百個から五千八百個までと、年によって大きく変動しています。これは雄花が作られる前年夏の気温や日照時間等の気象条件、少量飛散の翌年は雄花の着花量が増加することなどが影響していると考えられています。そこで花粉症の皆さんが気になるのが、今年の飛散量です。県では、花粉の飛散情報や花粉症の予防法などを県衛生環境研究センターのホームページで紹介しています。花粉症対策の参考にしてください。

花粉の飛散状況や予報などの情報を参考にして①マスクや眼鏡を着用する②洗濯物を屋内に干す③衣類は花粉が付着しやすい羊毛や毛織物を避ける④花粉が多く飛散するよう日は不要な外出を控える⑤などの、早めの予防対策に心がけてください。

二二年春の県内のスギ花粉の飛散量は、前年よりも大きく減少していました。

マスクや眼鏡の着用を

(県衛生環境研究センター)